



令和3年12月4日(土)・5日(日)の2日間、迎賓館において鎌倉歴史工房によるペーパークラフト(承久記絵巻)の展示がありました。写真は「源実朝が鶴岡八幡宮へ参詣する場面」

震宝館だより

題字・翁野光義師

霊宝館だより 第138号
令和4年4月9日発行
和歌山県伊都郡高野町高野山306
公益財団法人高野山文化財保存会
高野山霊宝館
電話0736-56-2029
URL <http://www.reihokan.or.jp>

第138号 目次

- 春期企画展「鎌倉時代の高野山」……………2～3
- 高野山の考古学(二十六)……………4～5
- 収蔵品の紹介109……………6～7
- 高野山霊宝館からのご案内……………8

○お詫ごと訂正

令和3年10月20日発行の霊宝館だより137号に誤りがございました。つきましては、左記の通り訂正をさせていただきます。

- 4頁 冬期平常展、会期について(誤) 令和3年12月4日(月)
 - (正) 令和3年12月4日(土)
- ご迷惑をおかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。

令和4年度 春期企画展 「鎌倉時代の高野山」

4月16日(土)～7月10日(日) まで

毎月21日(弘法大師の日) ご来館の方にプレゼントあり!

高野山霊宝館からのお知らせ

○令和3年度補助事業報告

●重要文化財(建造物) 金剛峯寺奥院経蔵保存修理事業
令和2年度から3カ年計画で進められている事業の2年目が行われ、屋根工事・檜皮葺替・塗装工事が行われました。

事業費 26,100,000円
国庫補助金 16,965,000円
県費補助金 1,468,000円
町費補助金 205,000円

○修理報告

●重要文化財 奥之院出土品のうち比丘尼法葉願文 金剛峯寺
破損箇所の修理および亀裂等の予防修理が行われました。

修理費 347,055円

○令和4年度国庫補助事業

●重要文化財(建造物) 金剛峯寺奥院経蔵保存修理事業
(令和3年2月より)

事業費 18,980,000円

●重要文化財(建造物) 金剛三昧院経蔵保存修理事業
事業費 21,600,000円

●重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理事業
事業費 10,670,000円

●重要文化財(美術工芸品) 紙本書色十巻抄ほか1件保存修理事業
平成29年度から5カ年計画で進められている事業の5年目が行われ、第9・10巻の修理が行われました。

事業費 4,385,981円
国庫補助金 2,850,000円
県費補助金 246,000円
町費補助金 34,000円

●重要文化財(美術工芸品) 紙本書色十巻抄ほか1件保存修理事業
平成29年度から5カ年計画で進められている事業の5年目が行われ、第9・10巻の修理が行われました。

事業費 4,385,981円
国庫補助金 2,850,000円
県費補助金 246,000円
町費補助金 34,000円

●重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理事業
事業費 10,670,000円

●重要文化財(建造物) 金剛三昧院経蔵保存修理事業
事業費 21,600,000円

●重要文化財(建造物) 金剛峯寺奥院経蔵保存修理事業
(令和3年2月より)

事業費 18,980,000円

●重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理事業
事業費 10,670,000円

●重要文化財(美術工芸品) 紙本書色十巻抄ほか1件保存修理事業
平成29年度から5カ年計画で進められている事業の5年目が行われ、第9・10巻の修理が行われました。

事業費 4,385,981円
国庫補助金 2,850,000円
県費補助金 246,000円
町費補助金 34,000円

●重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理事業
事業費 10,670,000円

●重要文化財(建造物) 金剛三昧院経蔵保存修理事業
事業費 21,600,000円

●重要文化財(建造物) 金剛峯寺奥院経蔵保存修理事業
(令和3年2月より)

事業費 18,980,000円

●重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理事業
事業費 10,670,000円

●重要文化財(美術工芸品) 紙本書色十巻抄ほか1件保存修理事業
平成29年度から5カ年計画で進められている事業の5年目が行われ、第9・10巻の修理が行われました。

事業費 4,385,981円
国庫補助金 2,850,000円
県費補助金 246,000円
町費補助金 34,000円

●重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理事業
事業費 10,670,000円

●重要文化財(建造物) 金剛三昧院経蔵保存修理事業
事業費 21,600,000円

●重要文化財(建造物) 金剛峯寺奥院経蔵保存修理事業
(令和3年2月より)

事業費 18,980,000円

●重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理事業
事業費 10,670,000円

●重要文化財(美術工芸品) 紙本書色十巻抄ほか1件保存修理事業
平成29年度から5カ年計画で進められている事業の5年目が行われ、第9・10巻の修理が行われました。

事業費 4,385,981円
国庫補助金 2,850,000円
県費補助金 246,000円
町費補助金 34,000円

●重要文化財(建造物) 普賢院四脚門保存修理事業
事業費 10,670,000円

●重要文化財(建造物) 金剛三昧院経蔵保存修理事業
事業費 21,600,000円

○書籍



和歌山の古建築をたずねて

霊宝館だよりにて連載中の鳴海祥博氏「高野山の古建築」をまとめた書籍が発売されました。お求めの方は霊宝館までご連絡ください。

○展覧会予定

- 4月16日(土)～7月10日(日) 春期企画展「鎌倉時代の高野山」
- 7月16日(土)～10月10日(月) 第43回大宝蔵展「高野山の名宝」
- 数字と高野山(予定)
- 10月15日(土)～令和5年1月15日(日) 秋期企画展「仏を護る入れ物」
- 納める・容れる・包む(予定)
- 令和5年1月21日(土)～4月9日(日) 冬期平常展「密教の美術」

○貸出情報

- MOA美術館「大時絵展」
4月1日(金)～5月8日(日)
国宝 澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃 金剛峯寺
重文 花蝶蒔絵念珠箱ならびに 附属念珠 金剛峯寺
- 奈良国立博物館 東・西新館「特別展 大安寺のすべて―天平のみほとけと祈り―」
4月23日(土)～6月19日(日)
国宝 勤操僧正像 普門院
- 愛媛県美術館「弘法大師空海誕生1250年記念 高野山金剛峯寺名宝展(仮)」
10月1日(土)～11月20日(日)
国宝 諸尊仏龕 金剛峯寺
国宝 八大童子立像のうち、恵光童子・烏俱婆譚童子 金剛峯寺
国宝 聲磬指帰 金剛峯寺
他
- 五島美術館「特別展『西行』語り継がれる漂泊の歌詠み(仮)」
10月22日(土)～12月4日(日)
国宝 僧円位書状(宝簡集巻第二十三) 金剛峯寺
- 和歌山県立博物館「特別展 きくのこの大般若経―わざわいをはらう経典―」
4月23日(土)～6月5日(日)
未指定 大般若経 巻110・600 金剛峯寺
- 奈良国立博物館「真享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展 中将姫と當麻曼荼羅―祈りが紡ぐ物語―」
7月16日(土)～8月28日(日)
重文 當麻曼荼羅縁起 清浄心院
- 三井記念美術館「大時絵展」
10月1日(土)～11月13日(日)
国宝 澤千鳥螺鈿蒔絵小唐櫃 金剛峯寺
重文 花蝶蒔絵念珠箱ならびに 附属念珠 金剛峯寺

利用案内	
■開館時間	11月1日～4月30日 8時30分～17時00分 5月1日～10月31日 8時30分～17時30分
■休館日	年末年始のみ
■拝観料	大人 1300円 高・大学生 800円 小・中学生 600円
■専用駐車場あり	高野町に住居票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。



重文 孔雀明王像 金剛峯寺

期間中、常設展示にて快慶作 孔雀明王像 展示中



未指定 承久記絵巻 卷第2 江戸時代 龍光院【前期】



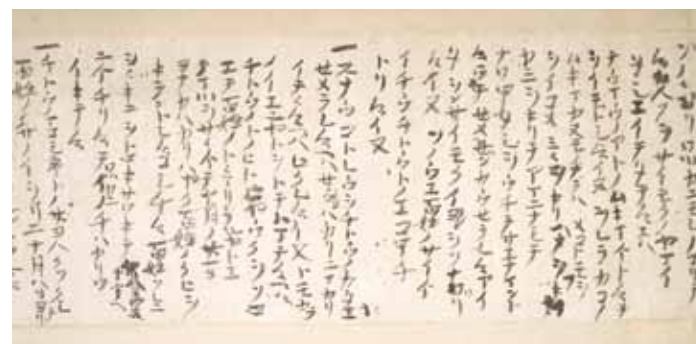
未指定 弘法大師丹生高野両明神像(問答講本尊模写) 江戸時代 宝寿院



重文 灌頂道具類のうち花瓶 鎌倉時代 龍光院



重文 阿弥陀如来及両脇侍立像 鎌倉時代 不動院
長野県善光寺の阿弥陀三尊像を模した善光寺式と呼ばれる像。鎌倉時代に流行した形式の像である。



国宝 又統宝簡集七十八下「阿弔河庄上村百姓等言上状」 鎌倉時代 金剛峯寺【後期】
「ミミヲキリ ハナヲソギ」で有名な教科書に掲載される文書。地頭の非道な行いを記している。



重文 五大力菩薩像のうち金剛吼 鎌倉時代 普賢院【前期】

もとは住吉大社にあった像で、裏書から建久8年(1197)の作とわかる。像の大きさ、線の太さは見るものを圧倒する。

令和四年度 春期企画展

「鎌倉時代の高野山」

令和4年4月16日(土)～7月10日(日)

前期 4月16日(土)～5月29日(日)

後期 5月31日(火)～7月10日(日)

会期中無休

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放映に伴い、例年以上に鎌倉時代が注目を浴びています。そこで、約80年ぶりに再発見された「承久記絵巻」(龍光院蔵)を中心に、高野山に伝わる鎌倉時代に関わる文化財を展示します。また、高野山の教学興隆の源となった高野版、高野山参詣道に今なお残る町石など、鎌倉時代の高野山について紹介します。

主な展示品

彫刻

重文 阿弥陀如来及両脇侍立像 不動院

重文 狛犬像 天野社

絵画

重文 五大力菩薩像 普賢院

重文 覚禅鈔 積迦文院

未指定 承久記絵巻 【前後期で展示替】

未指定 弘法大師丹生高野両明神像(問答講本尊模写) 宝寿院

未指定 四社明神像(元寇防戦に赴く図) 金剛峯寺

書跡

国宝 宝簡集三十三「源頼朝下文」 金剛峯寺【後期】

国宝 又統宝簡集七十八下「阿弔河庄上村百姓等言上状」 金剛峯寺【後期】

重文 町石建立供養願文 金剛峯寺【前期】

重文 白氏文集卷第三残卷 三宝山【前期】

重文 五行大義卷第五 三宝山【後期】

未指定 北条政子書状 金剛三昧院【前期】

工芸

重文 灌頂道具類のうち花瓶 龍光院

未指定 三鈷杵・五鈷杵(伝・行勝上人所持) 蓮華定院

歴史資料

重文 高野版板木 金剛三昧院

今後の展覧会

第四十三回大宝蔵展

「高野山の名宝」数字と高野山」(予定)

令和4年7月16日(土)～10月10日(月・祝)

高野山の地鎮遺構③

徳川家霊台

大阪大学文学部歴史文化学科

狭川 真一

徳川家霊台とは、徳川家康と二代将軍秀忠を祀る霊廟のことです(図1)。調査の結果、寛永九年(一六三二)の秀忠没後に着工し、『紀伊続風土記』にみえる寛永二〇年(一六四三)が完成の年といわれています。現在は家康と秀忠の二棟の霊屋が並んでいるのですが、明治二一年(一八八八)まで尊牌堂が脇にありました。残念ながら近隣火災の類焼で焼失してしまいました。残った両霊廟は江戸時代を代表する霊廟建築で、大正十五年(一九二六)に重要文化財に指定されています。その後、昭和三十六年(一九六一)一月から翌年八月までの期間で半解体修理が行われ、その工事に伴って地下が掘削された際に、それぞれの霊廟の周囲から鎮壇具が発見されました。



図1 徳川家霊台家康廟(右)・秀忠廟(左)

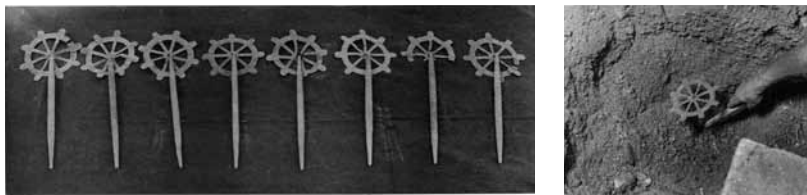


図2 鎮壇具出土状況(報告書から)

図3 出土した鎮壇具(報告書から)

鎮壇具の出土

地下の掘削は、正式な発掘調査ではなかったようですが、報告書により「雨落葛石の外側約三〇厘の場所に、隅々に一個と四面振分位置に一個ずつ、計八個の鎮壇具が、両霊屋それぞれに埋蔵されていた」とあります(図2・3)。つまり、雨落葛石というのは基壇外周の石列を意味していて、そこから約三〇cm外側で、建物の四

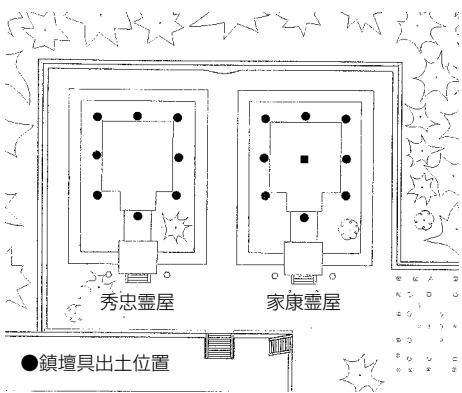


図4 徳川家霊台 霊屋鎮壇具出土位置推定図

角に各一点と建物四辺の中央に各一点が埋納されることが分かります。これを復元的に示しましたが図4で、正面は向拝が南へ突出していますので、その中央に推定してみました。さらに報告書では「家康霊屋の床下に、壺が一個埋蔵されてい

る」と記されています。床下の具体的な位置は報告されていませんが、前回紹介した結界の作法をイメージすると、四隅を結んだ交点と思われる、建物の中心に該当します。

鎮壇具 埋納状況と遺物

では何を埋納したのでしょいか。報告書には出土状況の写真が掲載されています。それを見ますと、密教法具の概を地面に突き刺し、その先端にやはり密教法具の輪宝を乗せたものを八ヶ所に配置したと推定されます。さらにそれらは特別な穴を掘って埋納するのではなく、地均しされた地面におそらく簡易な縄張りをして必要箇所直接概を突き刺し、建設予定部分を結界したと思われる。

突き刺された概は両端を尖らせただけの簡易な形状で、作り方も銅板を打ち抜いただけの簡単なものです。輪宝は八鋒輪宝と言われるもので、八方向へ突き出した鋒の先端は丸みを帯びています。

家康霊屋中央から出土した壺は銅製ですが、出土状況を見ると特別な穴に埋納されていないようで、八方に概と輪宝、中央に壺を置いて結界し、その上に直接盛土を行って基壇

を形成したのではないかと思われる。類例を求めて

概と輪宝を用いた鎮壇の事例を一件見つけましたので、比較してみたいと思います。それは、京都府八幡市清水八幡宮の神宮寺だった護国寺跡から見つかった遺構です。護国寺は、清水八幡宮本殿から北東方向へ一〇〇メートルほどのところにありました。発掘調査では本堂跡とみられる柱穴の一部と、須弥壇を囲うように配置された祭祀遺構が調査されました(図5)。祭祀遺構は直

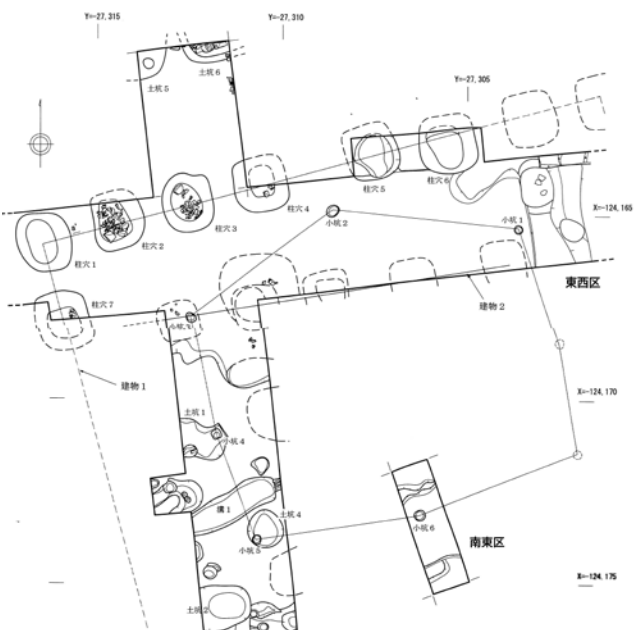


図5 護国寺跡祭祀遺構配置図



図6 護国寺跡出土祭祀遺構

径二五センチ前後、深さ十数センチの小穴で、底に輪宝を据え、その中央の穿孔部に独鈷杵を立てています(図6)。遺構は六ヶ所確認されましたが、状況から須弥壇推定位置から少し離れた四隅と、各辺の中央付近の合計八ヶ所に存在すると考えられます。中心は未調査のため不明ですが、祭祀遺構の配置方法(結界の作法)には共通するものが認められます。しかし、徳川家霊台の鎮壇具と異なるのは、個別の穴を掘って埋納されていることと概が独鈷杵に代わっていることだけでなく、輪宝の位置が穴の底になり、まったく逆の配置になっていることなどが指摘で

きます。実はこの護国寺は天台宗であり、その作法によって埋納されたと思われる。徳川家霊台は当然、真言宗の作法で埋納したでしょうから、両者が同じ地鎮行為を行いながらもそれぞれ独自の特徴を見ていることが分かります。

【参考文献】

- 財団法人高野山文化財保存会 一九六二『重要文化財金剛峯寺徳川家霊台家康霊屋秀忠霊屋修理工事報告書』
- 大洞真白・小森俊寛 二〇一一『石清水八幡宮境内調査報告書』八幡市教育委員会
- 松田正明 一九八四『和歌山における地鎮・鎮壇の遺構』『古代研究』第二八二九号、(財)元興寺文化財研究所



巻第三 砺波山の戦い。幕府軍(右)は火牛の計。朝廷軍(左)は石弓で応戦。



巻第二 三浦義村が北条義時に、弟胤義から来た上皇に味方するように促した書状を開示する場面。左上が義時(義時を描く唯一の絵)



巻第四 左上に、不動明王の旗を掲げる僧兵が描かれている。



巻第五 藤四郎入道頼信が、昔の主である胤義の首を家族に届けた場面。

でいうと、後鳥羽上皇が挙兵し、義時討伐の院宣が出されたことを知り、館に集まり、北条政子(一一五七〜一二二五)が御家人の前で演説している途中で巻第二が終わります。次いで巻第三では、戦いはすでに始まっており、美濃国(岐阜県)大井戸の戦いの終盤からとなっています。長村氏の研究によると、これはもともと流布本から推察すると約一巻分に相当するため、もとは全七巻だった可能性があるとしますが、各巻の標紙・貼紙題簽が制作当初のものと判断できることや、他の近世に制作された軍記絵巻がいくつも六の倍数の巻数編成であることから、当初から巻第二、三の間で巻が存在しなかった、つまり当初から全六巻だったという説が、現時点では妥当だとされています(結論は保留とさせていただきます)。七巻だったにしろ六巻だったにしろ、幻の巻に記されたであろう、政子の演説、泰時(義時の子)の出陣など絵で描いてほしかったと思う場面がないのは、個人的に少し残念に思います。

最後に、『承久記絵巻』のなかで、高野山に少し関わる場面を紹介いたします。承久の乱自体に高野山は関係がないので、大きな場面はありませんが、巻第五には藤四郎入道頼信という人物が描かれています。頼信は、朝廷方の三浦胤義(一一八五〜一二二二)に仕えていた人物で、乱発生時には高野山で隠遁していました。頼信は胤義の敗北を聞いて下山し京都に入りました。せめて供養でもと考えていたところ、胤義の自害の場面に立ち会います。胤義は、首を家族に見せた後で兄の三浦義村に届けるよう遺言を残し自害します。同巻には遺言に従い、頼信が首を京都太秦の女房のもとへ届けた場面が描かれています。

その他にも同じ巻に、乱後高野山に隠遁した仁和寺の道助入道親王(一一九六〜一二四九)が描かれている場面もあります。また、密教的なことという点で、巻第四に僧兵が不動明王の旗(絵詞では二童子も)を掲げている場面も興味深いです。

春期企画展では、すべての巻、場面を展示することはできませんが、今後の展覧会で徐々に展示できればと思います。また、判明したことがあれば、展覧会や霊宝館だよりにて紹介したいと思います。

(研谷昌志)

収蔵品の紹介 109

承久記絵巻 六巻

彩箋墨書・紙本著色 江戸時代(十七世紀)
龍光院蔵

(巻第一)	縦三三・一	五 cm	全長一五八二・六	六 cm
(巻第二)	縦三三・一	四 cm	全長一五三七・一	一 cm
(巻第三)	縦三三・一	五 cm	全長一四一九・七	七 cm
(巻第四)	縦三三・一	六 cm	全長一四四九・四	四 cm
(巻第五)	縦三三・一	六 cm	全長一六一五・五	五 cm
(巻第六)	縦三三・一	七 cm	全長一二三七・五	五 cm

約八〇年ぶりに再発見！承久の乱を描いた唯一の絵巻物！！



巻第一表紙

箱書

昨年八月、高野山龍光院より『承久記絵巻』を収蔵しました。これは承久の乱を描いた唯一の絵巻物で、承久の乱を記した文章と、その内容を描いた三十六の絵(基本的に直前の文章を絵にしている)で構成されています。承久の乱とは、鎌倉時代の承久三年(一二二二)に後鳥羽上皇(一一八〇〜一二三九)と鎌倉幕府執権の北条義時(一一六三〜一二二四)が対決した乱のことです。この絵巻は乱における合戦の様子や人々の悲哀を巧みに描写しています。今回はこの『承久記絵巻』を、参考文献に記した長村祥知氏の研究をなぞって紹介します。

箱書きによると絵は土佐光信(十五〜十六世紀の画家、絵詞は月輪禅定(九条兼実「一一四九〜一二〇七」)の作とありますが、近世制作の軍記絵巻の特徴に通じることから、江戸時代、十七世紀頃の制作と考えられています。いつ頃から龍光院所蔵であったかは定かではありませんが、龍光院所蔵となつてのち、長らく所在不明となつていました。所在が最後に確認されたのは、昭和十四年(一九三九)に京都恩賜博物館(現在の京都国立博物館)で行われた「後鳥羽天皇七百年記念拝展」での展示です。その後、昭和四十九年(一九七四)に発刊された

松本靖明氏校注『承久記 新撰日本古典文庫1』の解説には、龍光院にあった『承久記絵巻』六巻が現在所在不明とあるので、昭和十四〜四十九年(一九三九〜七四)の間に所在不明になったということです。近年、個人が所蔵していることが判明し、令和三年(二〇二二)に京都文化博物館で展示、改めて龍光院所蔵となりました。

承久の乱について詳しく記している書物は『吾妻鏡』や『承久記』という史料です。『承久記』も慈光寺本や流布本といった種類に分かれ、それぞれ書いてあることが違うということが多々あります。『承久記絵巻』の絵詞は、このうち『承久記』流布本の慶長古活字本・寛永版本をもとにしていると考えられています。もとはあるのですが差異は見られ、『承久記絵巻』の方は、ひらがなが非常に多くなっています。

さて内容を見てみると、初めは後鳥羽上皇の批評、源実朝の暗殺、承久の乱の原因、経過、終戦を経て最後は土御門上皇(一一九五〜一二三二)の阿波国(徳島県)配流で幕を閉じています。承久の乱の内容は、紙数の関係上省きますが、順番に読んでいくと、巻第二と三に繋がりがありません。